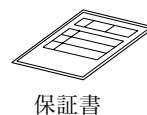
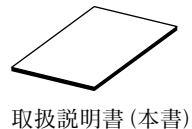


3. ご使用になる前に

付属品をお確かめください

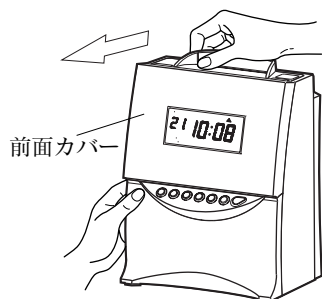


タイムレコーダー内部のパッドを外してください

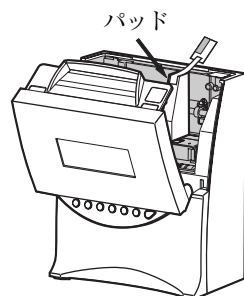
タイムレコーダー内部には、輸送時の振動などから製品を保護するためのパッドが入っています。

! 電源を入れる前に必ずパッドをタイムレコーダーから抜いてください。(パッドを外さないとタイムレコーダーが正しく動作しません)

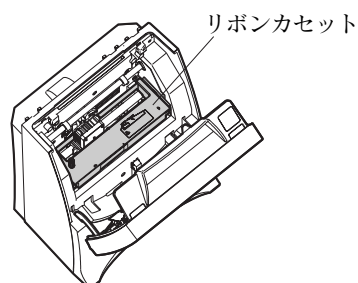
1 カード挿入口の上部を摘んで前面カバーを手前に引いてください。



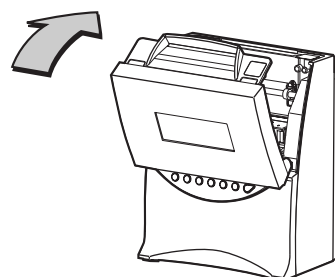
2 パッドを抜きます。



3 リボンカセットが装着されているのを確認してください。



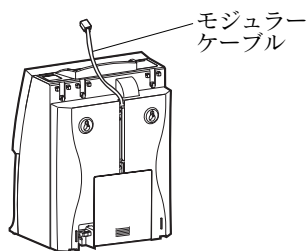
4 前面カバーを閉じてください。



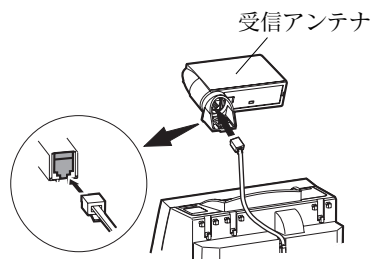
受信アンテナを取り付けてください

次の手順で、タイムレコーダーに受信アンテナを取り付けてください。

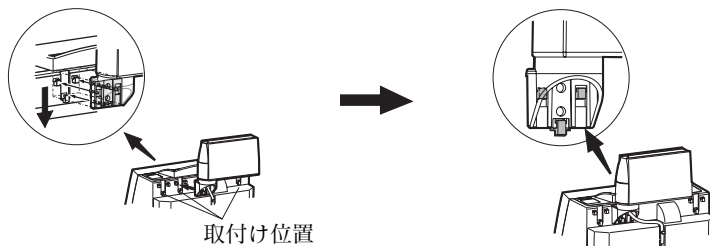
- ① タイムレコーダー上部裏側に、モジュラーケーブルがついています。



- ② モジュラーケーブルを受信アンテナに「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

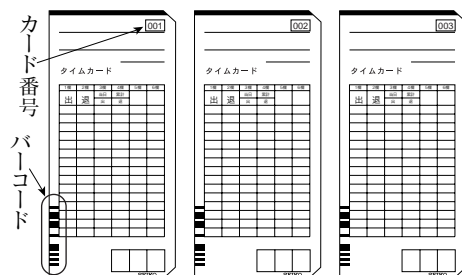


- ③ 受信アンテナをタイムレコーダー上部3箇所のいずれかに取り付けてください。取り付け位置は、タイムレコーダーの設置場所や受信アンテナの向きなど、ご使用に応じて選べます。



タイムカード(別売)

タイムレコーダーで使用できるタイムカードは、セイコー「SYカード」です。お求めの際には、セイコー「SYカード」とご指定ください。このタイムレコーダーは30人までお使いいただけます。タイムレコーダーはそれぞれのタイムカードのバーコードを識別しています。

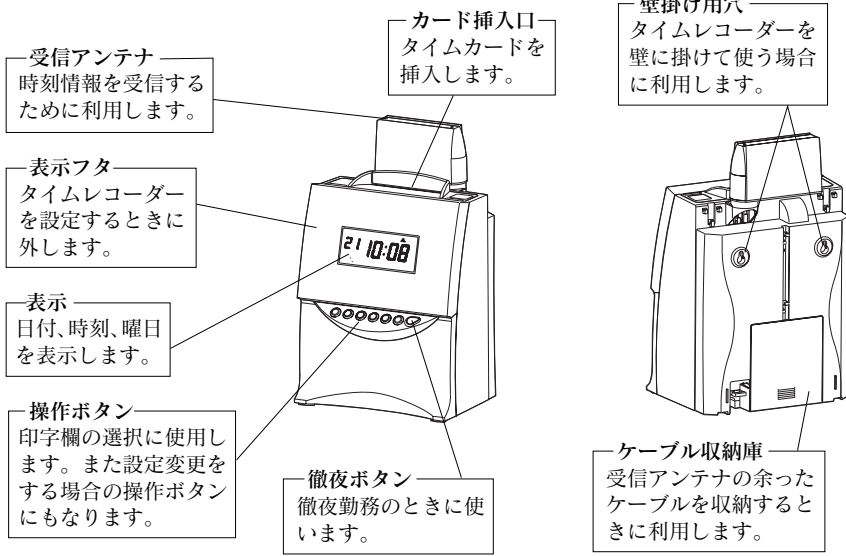


注意

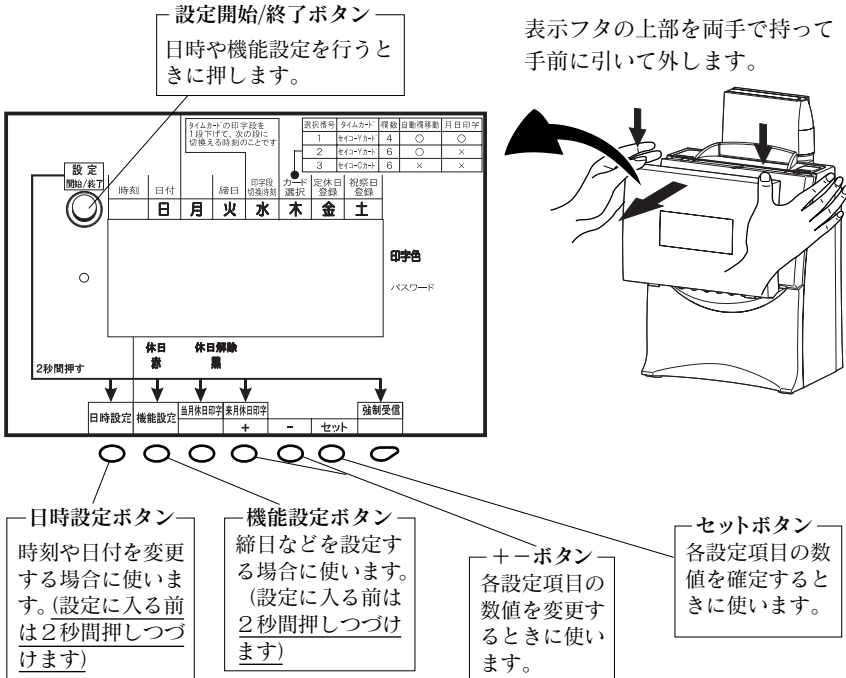
ご使用の際は、タイムカード黒印刷面右上のカード番号が絶対に重複しないようにご注意ください。重複すると印字欄がずれたり打刻回数オーバーなどの原因となります。

各部の名称とはたらき

★通常のご使用時……………



★タイムレコーダーを設定するとき……………表示フタを外します。

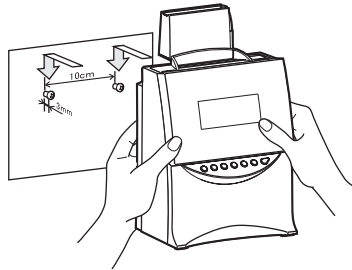


壁掛けの方法

★タイムレコーダーを固定する場合……………

付属のネジを使って、タイムレコーダーを壁に掛けることができます。壁に掛けて使用する場合には、次のようにしてください。

- 1 付属の壁掛け取り付けネジ2本を、横10cmの間隔で壁に取り付けます。このときネジの頭を3mmほど出して、取り付けてください。
- 2 タイムレコーダー背面の壁掛け用の穴を使って、ネジに引っかけます。

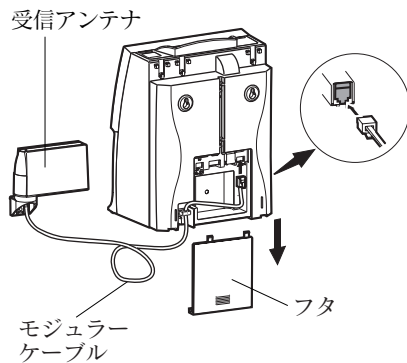


! 同梱されているネジは木造の厚い壁や木の柱でご使用されることを前提としており、それ以外の条件の場所ではご使用にならないようにしてください。タイムレコーダーが落下してお客様がケガをされたり、また本体の故障の原因となるおそれがあります。

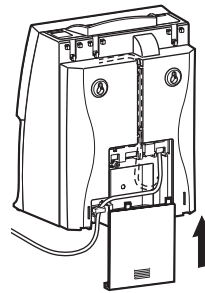
★受信アンテナを固定する場合……………

付属のネジを使って、受信アンテナを壁に取り付けることができます。本体背面のケーブル収納庫からケーブルを引き出して、標準電波を受信できるところに取り付けてください。

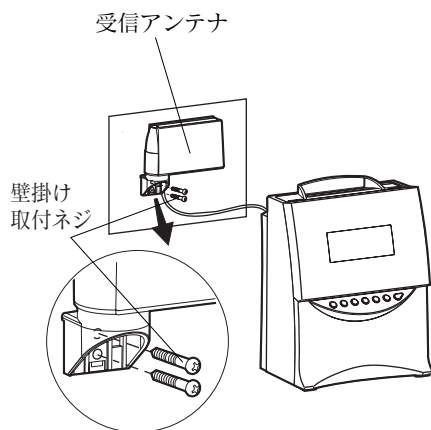
- 1 タイムレコーダー背面の“フタ”を外して、格納されているモジュラーケーブルを引き出してください。
- 2 ご使用に応じて、上部または下部にモジュラーケーブルを引き出して、“フタ”を閉めてください。



“フタ”を閉める前にモジュラーケーブルがタイムレコーダーと受信アンテナにつながっていることを確認してください。外れていたときは、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



! モジュラーケーブルを本体と“フタ”の間に挟まないように注意して閉めてください。



同梱されているネジは木造の厚い壁や木の柱でご使用されることを前提としており、それ以外の条件の場所ではご使用にならないようにしてください。
受信アンテナが落下してお客様がケガをされたり、また本体の故障の原因となるおそれがあります。

設置について

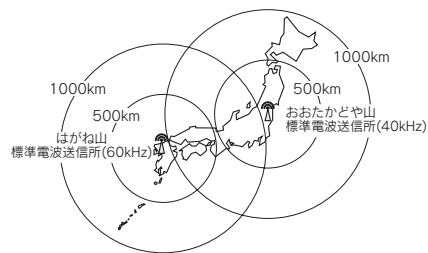
次のような場所でのご使用は避けてください。

- 湿気やほこりの多い場所
- 直射日光のあたる場所
- 水や雨などのあたる場所や屋外
- 振動の激しい場所または常時振動が発生する場所
- 気温が -5°C 以下や、 45°C 以上の場所
- 化学薬品やオゾンなどの影響をうける場所

4.電波時計について

このタイムレコーダーは、通信総合研究所が運用している時刻情報をのせた標準電波を受信して、自動的に時刻合わせができます。

電波時計は、40KHz（福島送信所）と60KHz（九州送信所）の2箇所の標準電波に対応し、どちらか受信しやすい電波を自動的に選択して受信しています。ただし、天候や設置場所、時間帯あるいは地形や建物の影響などによって受信できない場合があります。

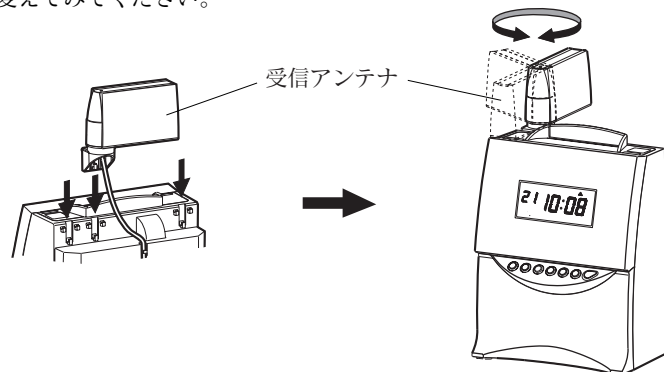


電波時計は、設置場所によって標準電波を受信できない場合があります。

後述の「★電波時計の設置について」を参照してください。

受信状態をよくする為に、なるべく**窓の近くに設置**してください。

また、受信アンテナの向きによっても、受信状態が変わりますので、受信アンテナの向きを変えてみてください。



受信状態を確認するために、強制受信を行わせることができます。強制受信がはじまると、本体の表示ならびに受信アンテナに内蔵されているランプが点滅しますので、それを参考に受信しやすい場所ならびに受信アンテナの向きを調整してみてください。強制受信については、後述の「強制受信」を参照してください。



受信アンテナを本体に取り付けた状態で受信しやすいところに設置できない場合は、本体背面のケーブル収納庫にあるケーブルを引き出すことで、受信アンテナを電波の受信しやすいところに設置できます。詳しくは、前述の「壁掛けの方法」を参照してください。

! 本体および受信アンテナは、水、薬品、雨などのかかる場所や屋外に設置しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

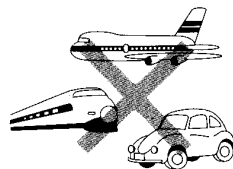
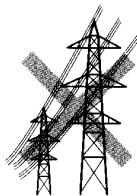
また、付属のモジュラーケーブルでは短いときは、市販のモジュラーケーブルに交換することで、遠いところにも設置できます。受信アンテナを設置する場所で受信ができることを確認してから、必要な長さのモジュラーケーブルをお求めください。モジュラーケーブルは、電話機やファクシミリを接続する6極2芯または6極4芯タイプがご利用いただけます。

★電波時計の設置について

設置の環境によって受信できなかったり、電波障害によって誤った時刻を受信してしまう場合があります。このようなときは、設置場所を変えてご使用ください。

次のような場所では受信できないことがあります。

- ビルの中、ビルの谷間、地下。
- 高圧線、テレビ塔、電車の架線の近く。
- テレビ、冷蔵庫、エアコン、空気清浄機、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やOA機器の近く。
- 工事現場、空港の近く、軍事基地や交通量の多い所など、電波障害の起きる所。
- スチール机等の金属製の家具の上や近く。



自動受信

このタイムレコーダーは、次の受信時刻になると自動的に標準電波の受信を開始して、時刻の修正を行います。

★受信時刻

2:02、3:02、5:02、8:02、11:02、14:02、17:02、20:02、23:02

受信中は、タイムレコーダーの“表示部”に受信状況を表示します。

受信を開始すると、“受信マーク”が点滅します。

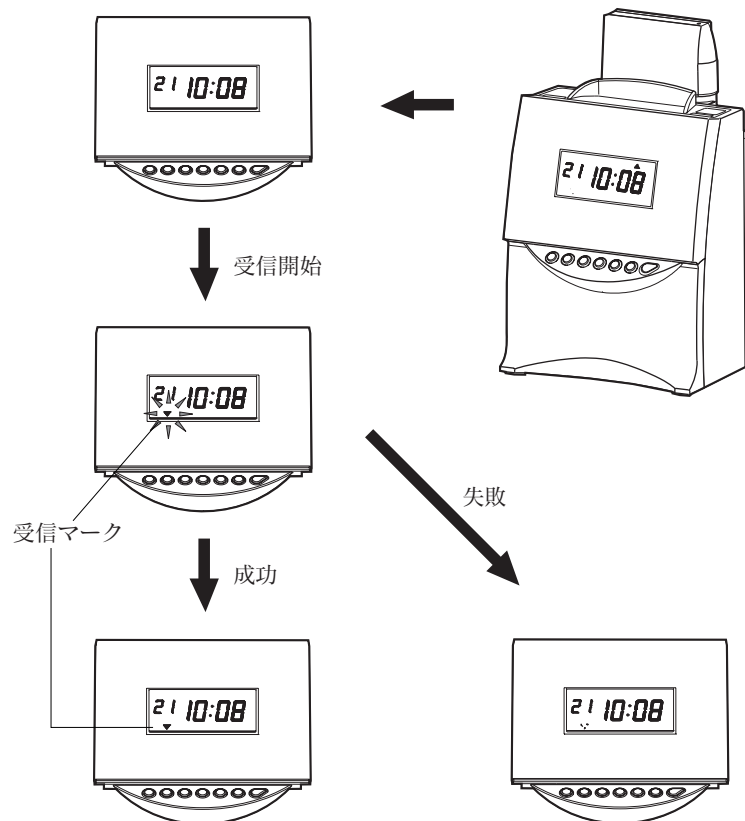
受信に成功すると、時刻が修正されて、“受信”マークが点灯します。

受信に失敗すると、“受信マーク”が消灯します。

受信に失敗したときは、タイムレコーダー内部の水晶振動子の時計精度で計時します。

標準電波の受信を失敗しても、上記「★受信時刻」になれば、ふたたび、受信を開始します。

上記「★受信時刻」の時に電源が切れていても、電源を入れると受信が開始されます。



電波の受信状況が良好なときは、およそ10分ほどで受信が完了します。
(受信状況によっては、最大で80分ほどかかる場合があります。)

注意 電波の受信状態が悪いと、受信を中断することがあります。

次のようなときは、電波受信を中断する場合があります。

- 電波の受信状態が非常に悪いとき。
- 日付、または、時刻を手動で更新したとき。
- 停電、または、電源プラグがACコンセントから抜かれると受信ができません。
- リセットスイッチを押したとき。

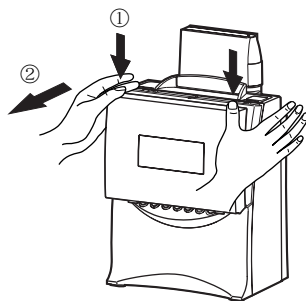
“受信マーク”は、次のときに点灯します。

- 受信に成功したとき。
- 24時間以内に受信が成功しているとき。

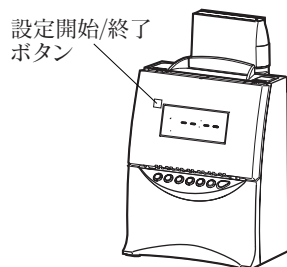
強制受信

このタイムレコーダーは、次の手順で、電波受信を開始できます。

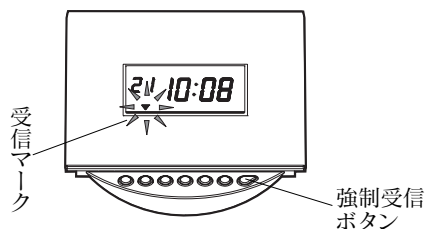
- ① “表示フタ”上部を持ち手前に引いて、“表示フタ”を外してください。



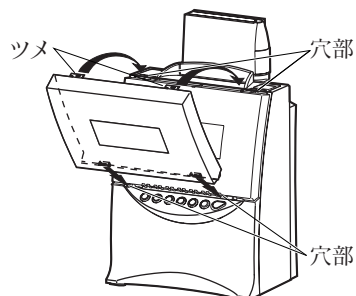
- ② 設定開始/終了ボタンを押すと、“表示”が下図のようになります。



- ③ 右端の強制受信ボタンを1秒間押しつづけると受信が開始され、“受信マーク”が点滅します。



- ④ “表示フタ”の下部両側の“ツメ”を、本体中央部の“穴部”に差し込んでから、“表示フタ”の上部両側の“ツメ”を本体上部の“穴部”に差しこみます。



5. 日常の操作

時刻や縮日などタイムレコーダーが動作するために必要な事柄は、あらかじめ設定されています。パッドを外して、受信アンテナを取り付け後、**電源を入れてお使いください。**

! 前述の「ご使用になる前に」を必ずお読みください。

タイムレコーダーの使い方はきわめて簡単です。タイムカードを挿入していただきますと、カードは本体に自動で引き込まれ、印字後に自動的に上がってきます。

! カード挿入口にクリップ等の金属は絶対に入れないでください。また、カードを無理に押し込まないでください。故障の原因となる恐れがあります。

縮日などが実際にご使用いただく場合と異なるときには、後述の「設定のしかた」をご参照ください。

ご使用できるタイムカードは、“セイコーSYカード”となっております。“セイコーSYカード”をタイムレコーダーに入れると、**印字欄を自動的に選択**して印字します。

“セイコーCカード”をご使用になられる場合は、後述の「カードの選択」をご参照ください。

注意 セイコーCカードを選択しますと、自動欄移動ができなくなります。ご使用の際は、“操作ボタン”を使って印字欄を選択してから、タイムカードを入れください。重ね打ちをする恐れがありますのでご注意ください。

このタイムレコーダーは、通常、黒で印字します。印字色を切り替えて印字したいときは、印字色設定で行います。

このタイムレコーダーは、決まった時刻になると、自動的に標準電波を受信して、時刻を修正します。

注意 タイムレコーダーや受信アンテナの設置場所によって、電波による時計の自動修正ができない場合があります。詳しくは、前述の「電波時計について」をご参照してください。

自動的に印字欄が選択されて打刻します

セイコーSYカードを入れると、タイムレコーダーは自動的に印字欄を選択して時刻を印字します。また、セイコーSYカードなら、5欄目に月日・曜日も印字できます。

☆4欄印字

10:08	18:00			3/19水
8:25	12:30	13:02	18:05	3/20木
8:30	12:30			3/21金

1欄目 ↓

5欄目は
月日・曜日印字

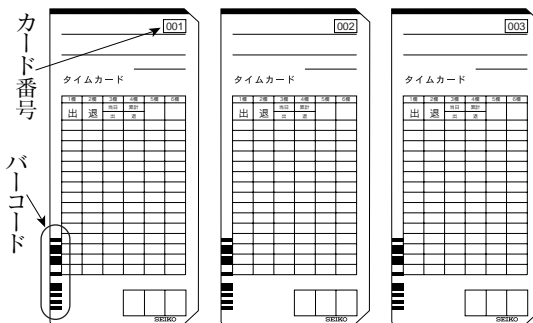
☆6欄印字

空	10:08	18:00			
民	8:25	12:30	13:02	18:05	21:07
民	8:30	12:30	13:10	18:20	

注意

セイコーSYカードのバーコード部分は汚さないようご注意ください。
また、ペン書きしたり付箋などの貼付けも厳禁です。タイムレコーダーがバーコードを読み取れなくなる場合があります。

タイムレコーダーはそれぞれのタイムカードのバーコードを識別しています。



注意

ご使用の際は、タイムカード黒印刷面右上のカード番号が絶対に重複しないようご注意ください。重複すると印字欄がずれたり打刻回数オーバーなどの原因となります。

打ちたい印字欄に変えるには……

打ちたい印字欄の“操作ボタン”を選択してから、タイムカードを入れてください。

例えば、「1欄目(出勤)を打ち忘れてしまった」、でも、今は「2欄目(退勤)を印字したい」ときにご利用できます。

注意

セイコーSYカードでは、タイムカードを認識してカードごとに1欄→2欄→3欄→4欄という順で印字欄を選択しています。
例えば、2欄を印字した後に、“操作ボタン”で1欄を選択することはできません。

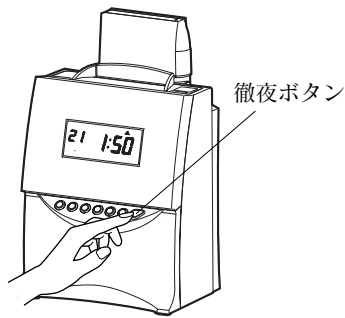
6.こんなこともできます!

徹夜勤務に対応! 24時間営業にもピッタリ!

日付が変わったときは、**徹夜ボタン**を押してからタイムカードを入れてください。**出勤日と同じ段に印字**できます。

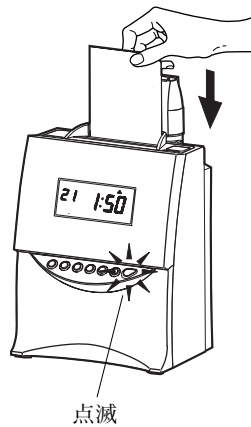
徹夜で印字したときは、ひと目でわかるようにコメント“テ”が印字されます。

- 1 **徹夜**ボタンを押してください。
すると、**徹夜**ボタンが点滅します。



! セイコーCカードをご使用の場合は、印字したい欄の“操作ボタン”も押してください。印字欄を選択しないと、重ね打ちをする恐れがありますのでご注意ください。

- 2 タイムカードをタイムレコーダーに入れます。



- 3 出勤日と同じ段に印字されます。

10:08	18:00			3/18火
8:25	12:30	13:02	18:05	3/19水
8:30	12:05	13:10	21 1:05テ	3/20木

日付・時刻に
コメント“テ”
が付きます

「休日」の文字が印字できます！

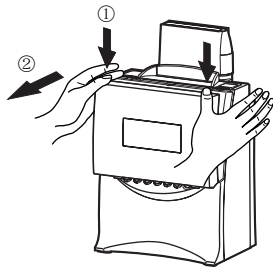
ご使用になるタイムカードへ、赤色で“休日”を印字しておくことができます。タイムカードへ“休日”を印字しておくこと、休日が一目でわかり大変便利です。

このタイムレコーダーは、初めに休日の設定をしておくことで、自動的に当月分の休日を印字することができます。休日の変更や追加をしたい場合は、「設定のしかた」の「定休日の登録」と「祝祭日の登録」をご参照ください。

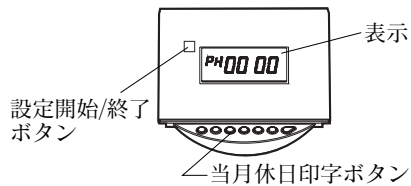
★当月の休日を印字したい……

例：毎週日曜日が休日で、今日が2003年3月3日のとき、タイムカードの2003年3月1日から2003年3月31日までの日曜日(2日、9日、16日、23日、30日)の段に「休日」が印字されます。

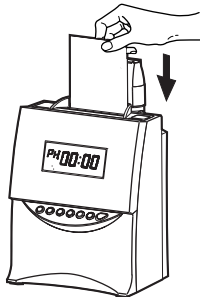
- ① “表示フタ”上部を持ち手前に引いて、“表示フタ”を外してください。



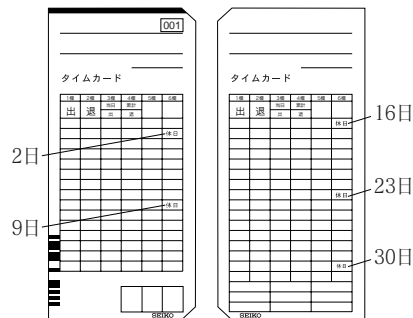
- ② 設定開始/終了ボタンを押した後、左から3番目の当月休日印字ボタンを2秒間押しつづけます。すると、“表示”が下図のようになります。



- ③ タイムカードの表面(黒)を手前にして、タイムレコーダーに入れます。表面の「休日」が印字されます。



- ④ 次にタイムカードの裏面(赤)を手前にして、タイムレコーダーに入れます。裏面の「休日」が印字されます。

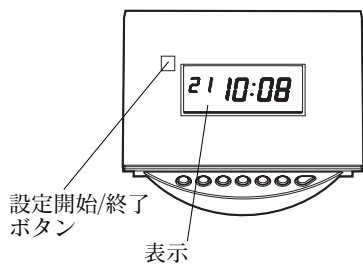


注意

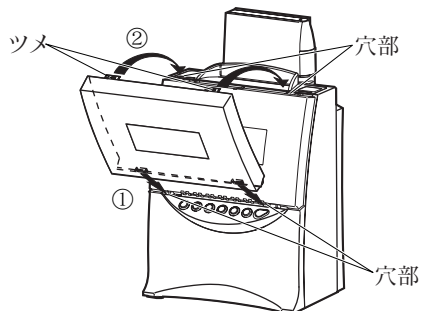
全ての休日を印字すると自動的にタイムカードが排出されます。印字中にタイムカードを引き抜くと正常に印字できなくなりますのでご注意ください。

- ⑤ 続けて別のタイムカードに休日を印字したいときは、そのまま、(3)と(4)の作業を繰り返してください。

- ⑥ すべてのタイムカードの印字が終わったら、**設定開始/終了**ボタンを押して、休日印字を終了してください。時計表示に戻ります。



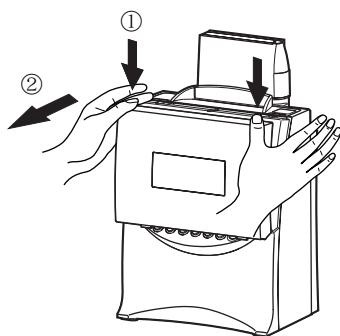
- ⑦ 印字終了後は、“表示フタ”の下部両側の“ツメ”を本体中央部の“穴部”に差し込んでから、“表示フタ”の上部両側の“ツメ”を本体上部の“穴部”に差し込んでください。



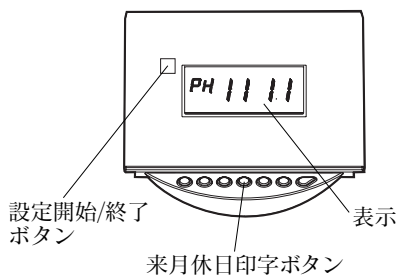
★来月の休日を印字したい…………

(操作の手順は、「★当月の休日を印字したい…………」と同じです。)
(詳しくは、「★当月の休日を印字したい…………」をご参照ください。)

- ① “表示フタ”上部を持ち手前に引いて、“表示フタ”を外してください。



- ② **設定開始/終了**ボタンを押した後、左から4番目の**来月休日印字**ボタンを2秒間押しつづけます。“表示”が下図のようになります。



後の操作は、「★当月の休日を印字したい…………」の(3)～(7)と同じです。

7. 設定のしかた

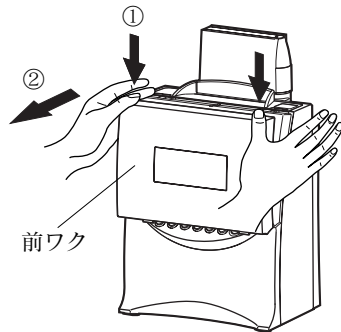
設定の準備

“表示フタ”を外して締日や時刻などを設定できる状態にします。

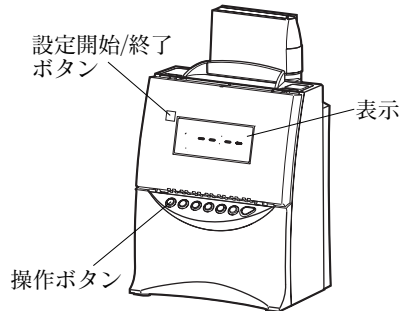


設定する時は、ACコンセントに電源プラグを差し込んで電源を入れてください。

- ① “表示フタ”上部を両手で持って、手前に引いてください。

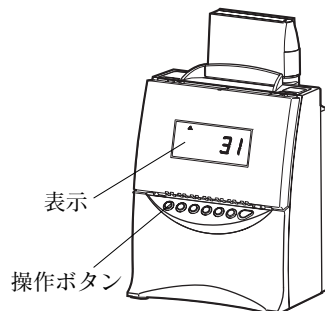


- ② 設定開始/終了ボタンを押すと、“表示”が下図のようになります。次に“操作ボタン”を2秒間押し続けると、各種設定ができるようになります。

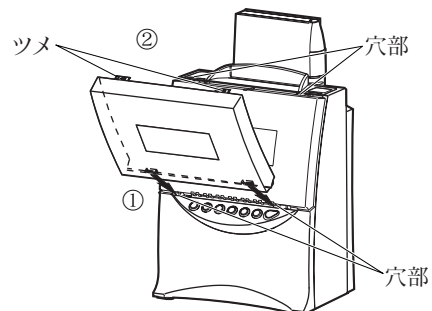


- ③ “表示”を見ながら“操作ボタン”を使って設定できます。

各設定の詳細については次ページ以降をご覧ください。



- ④ 設定終了後は、“表示フタ”の下部両側の“ツメ”を、本体中央部の“穴部”に差し込んでから、“表示フタ”の上部両側の“ツメ”を本体上部の“穴部”に差し込みます。

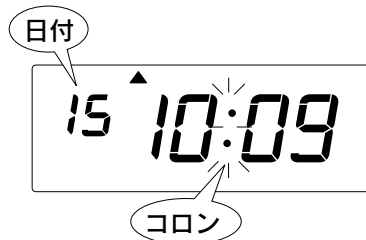
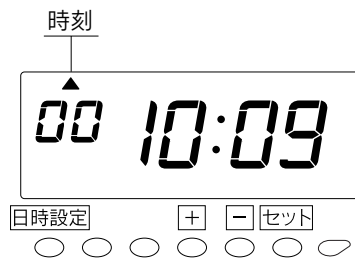
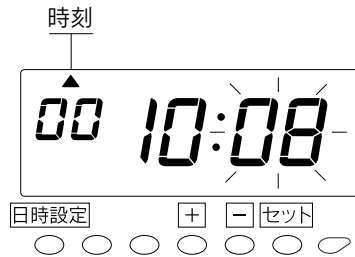
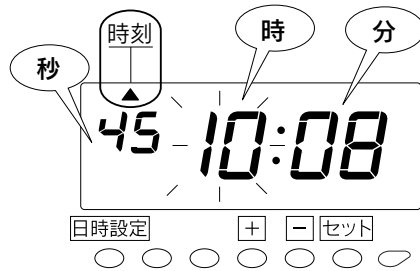


時刻の設定

時刻を変更するときに設定してください。

設定開始/終了ボタンを押して、設定できる状態にしてください。
このとき、表示は“----”になります。

例) 10時8分を10時9分に変更する場合



- 1 日時設定ボタンを2秒間押しつづけます。
このとき表示の上側の“▲”が時刻に合います。

点滅している数字が変更できます。

- 2 例では“時”は10時のまま変更しませんのでセットボタンを押します。これで10時が設定できました。このとき表示の点滅は“時”から“分”に移ります。“秒”は“00”秒になります。

- 3 時刻の“分”を変更します。
(例：8分→9分)
+ボタンを押して、“09”分に合わせ、次にセットボタンを押します。“秒”が進みだします。これで9分が設定できました。

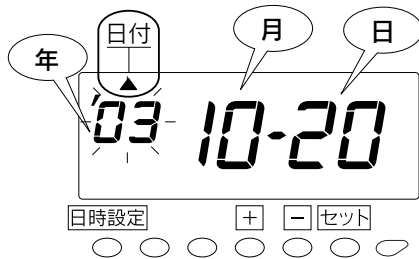
- 4 設定開始/終了ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。
「日付」「時刻」の表示になり、コロソが点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

日付の設定

日付を変更するときに設定してください。

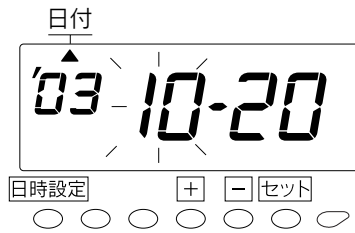
設定開始/終了ボタンを押して、設定できる状態にしてください。
このとき、表示は“----”になります。

例) 2003年10月20日を同年同月21日に変更する場合



- 1 日時設定ボタンを2秒間押しつづけます。時刻の表示になります。日時設定ボタンを押して、表示の上側の“▲”を“日付”に合わせてください。
年は西暦の下2桁が表示されます。

点滅している数字が変更できます。



- 2 例では年は2003年のまま変更しませんので、セットボタンを押します。これで2003年が設定できました。このとき表示の点滅は“年”から“月”に移ります。



- 3 例では“月”は10月のまま変更しませんのでセットボタンを押します。これで10月が設定できました。このとき表示の点滅は“月”から“日”に移ります。



- 4 日を変更します。
(例：20日→21日)
+ボタンを押して“21”日に合わせ、次にセットボタンを押します。これで21日が設定できました。



- 5 設定開始/終了ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。「日付」「時刻」の表示になり、コロンが点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

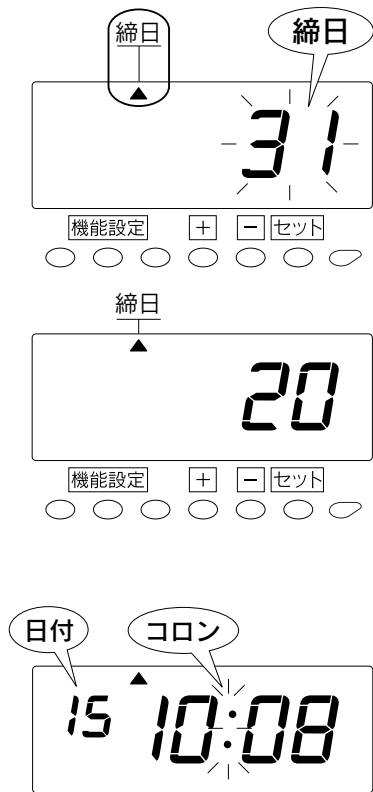
締日の設定

あらかじめ月末締め(31日)に設定されています。締日が月末と15日以外の場合は締日を変更します。

大の月、小の月によらず、月末締めの場合は締日「31」のままにご利用いただけます。

設定開始/終了ボタンを押して、設定できる状態にしてください。
このとき、表示は“----”になります。

例) 月末締め(31日)を20日締めに変更する場合

- 
- 1 機能設定ボタンを2秒間押しつづけます。
表示の上側の“▲”が締日に合います。
 - 2 増ボタンを押して、“20”日に合わせ、次にセツ下ボタンを押します。
 - 3 設定開始/終了ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。
「日付」「時刻」の表示になり、コロンの点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

印字段切替時刻の設定

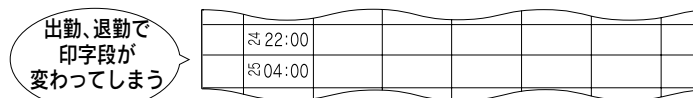
印字段切替時刻とは、タイムカードの印字を1段下げて、次の日の段に切り替える時刻のことです。

あらかじめ午前0:00に設定されていますが、この時間にタイムレコーダーをご利用されない場合はあらためて設定する必要はありません。

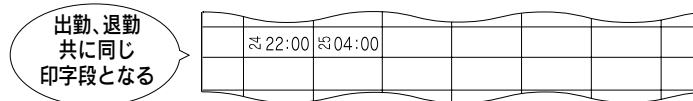
また、印字段切替時刻をまたいで退勤する場合には徹夜ボタンを押してからタイムカードを入れてください。

例えば、夜勤をする人が、ある月の24日午後10時(22時)に出勤し翌日の25日午前4時に退勤する場合は、「印字段切替時刻」を午前5時以降に設定しておけば出勤、退勤が同じ段となります。印字段切替時刻と印字結果は次のようになります。

- 「印字段切替時刻」が午前0時で、午前4時に退勤する場合
(「印字段切替時刻」が退勤時刻より前の場合)

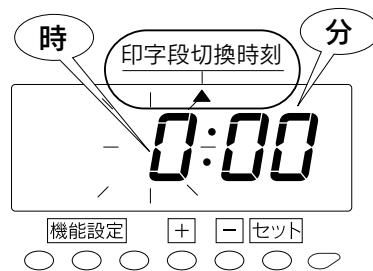


- 「印字段切替時刻」を午前5時(05:00)と設定し、午前4時に退勤する場合
(「印字段切替時刻」が退勤時刻より後に設定した場合)



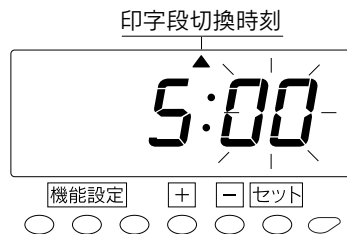
設定開始/終了ボタンを押して、設定できる状態にして下さい。
このとき、表示は“----”になります。

例) 印字段切替時刻を午前0:00から午前5:00に変更する場合

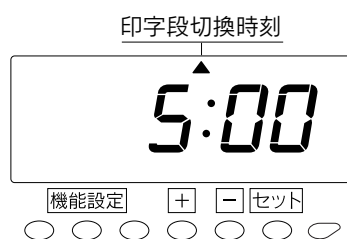


- 1 機能設定ボタンを2秒間押しつづけます。
締日設定の表示になります。
機能設定ボタンを1回押して表示の上側の“▲”を“印字段切替時刻”に合わせてください。

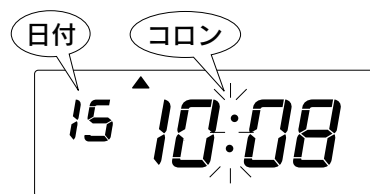
点滅している数字が変更できます。



- ② **+**ボタンを押して“5”時に合わせ、次に**セット**ボタンを押します。これで“時”の設定ができました。このとき表示の点滅は“時”から“分”に移ります。



- ③ 例では“分”は“00”分のまま変更しませんので、**セット**ボタンを押します。これで“00”分が設定できました。



- ④ **設定開始/終了**ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。「日付」「時刻」の表示になり、コロンが点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

カードの選択

このタイムレコーダは用途に合わせて以下のようにカードの選択ができます。
あらかじめ、セイコーSYカード（4欄）に設定されています。

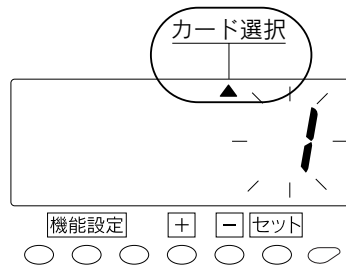
選択番号	カードの種類	欄数	自動欄移動	月日印字
1	セイコーSYカード	4	○	○
2	セイコーSYカード	6	○	×
3	セイコーCカード	6	×	×

あらかじめ
設定されて
います。

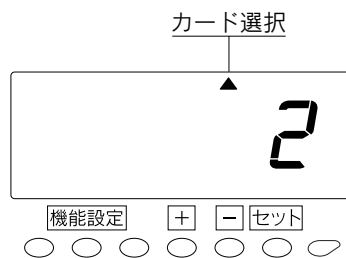
注意 セイコーCカードを選択された場合は、自動欄移動はしませんので“操作ボタン”を押して印字欄を切り替えてください。

設定開始/終了ボタンを押して、設定できる状態にして下さい。
このとき、表示は“----”になります。

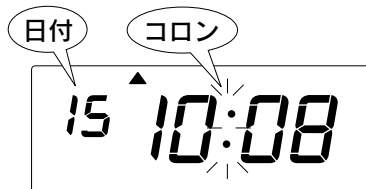
例) セイコーSYカード（4欄）からセイコーSYカード（6欄）に変更する場合



1 機能設定ボタンを2秒間押しつづけます。
縮日設定の表示になります。
機能設定ボタンを2回押して表示の上側の“▲”を“カード選択”に合わせてください。



2 +ボタンを押して“2”に合わせ、次にセットボタンを押します。



3 設定開始/終了ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。
「日付」「時刻」の表示になり、コロンが点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

定休日の登録

あらかじめ、“毎週”の“日曜日”に設定されています。定休日を変更または追加するときに設定してください。

休日は“週の設定”と“曜日の設定”で設定します。

週の設定

曜日の設定

選択番号	内容	選択番号	内容
1	第1週	1	月曜日
2	第2週	2	火曜日
3	第3週	3	水曜日
4	第4週	4	木曜日
5	第5週	5	金曜日
6	毎週	6	土曜日
--	設定解除	7	日曜日

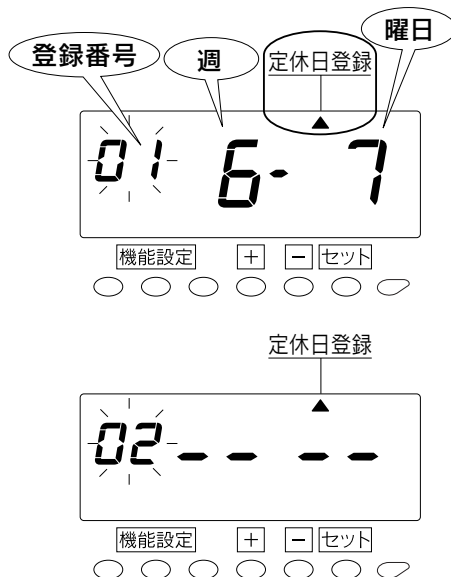
■4個まで登録できます。

注意

週の設定で、第5週がない月では5番(第5週)は設定できません。

設定開始/終了ボタンを押して、設定できる状態にしてください。
このとき、表示は“----”になります。

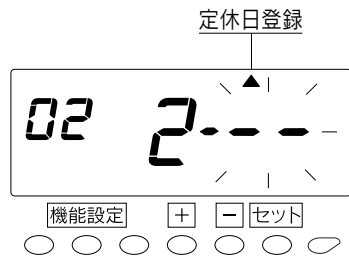
例) “毎週”、“日曜日”の定休日に加え、“第2週”と“第4週”の“土曜日”を定休日にしたい。



- 1 機能設定ボタンを2秒間押しつづけます。
曜日設定の表示になります。
機能設定ボタンを3回押して表示の上側の“▲”を“定休日登録”に合わせてください。

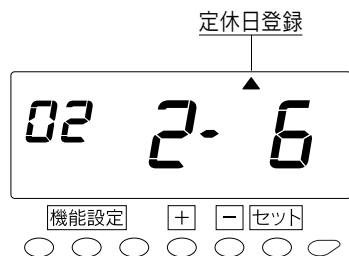
点滅している数字が変更できます。

- 2 例では登録番号1は“毎週”、“日曜日”のまま変更しませんので、+ボタンを押して“登録番号”を“2”に合わせてください。このとき表示の“週”、“曜日”が“--”になります。

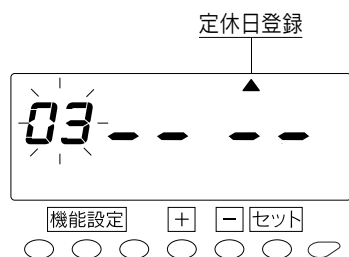


- ③ 登録番号2にあらたに定休日を追加します。
(例：“第2週”の“土曜日”)

週を設定します。
セット ボタンを押して、表示の点滅を“週”にしてください。次に、**+** ボタンを押して“2”に合わせ **セット** ボタンを押します。これで“第2週”が設定できました。このとき表示の点滅は“曜日”に変わります。



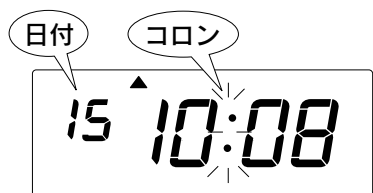
- ④ 曜日を設定します。
+ ボタンを押して、“6”に合わせ **セット** ボタンを押します。これで“土曜日”が設定できました。



- ⑤ 登録番号3にあらたに定休日を追加します。
(例：“第4週”の“土曜日”)

+ ボタンを押すと、“登録番号”が点滅します。もう一度 **+** ボタンを押して“3”に合わせてください。

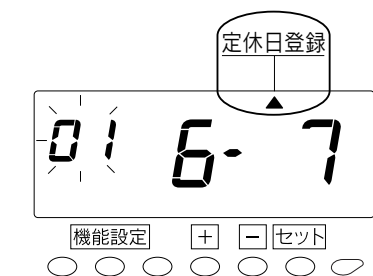
以下、手順3、4を参照して、同様に設定してください。



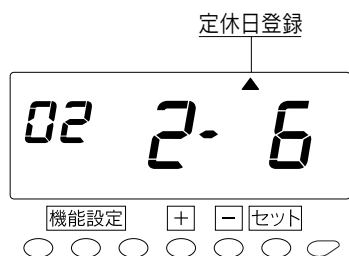
- ⑥ **設定開始/終了** ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。
「日付」「時刻」の表示になり、コロンが点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

設定した“休日”をタイムカードに印字したいときは前述の「休日」の文字が印字できます！」をご参照ください。

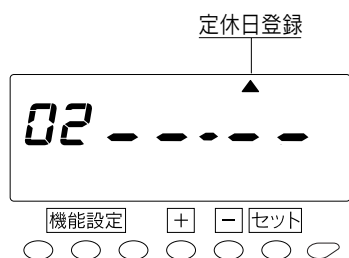
定休日の登録を取り消すには…………



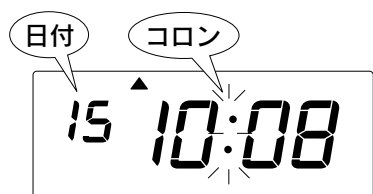
- 1 **機能設定** ボタンを2秒間押しつづけます。
 締日設定の表示になります。
機能設定 ボタンを3回押して表示の上側の“▲”を“定休日登録”に合わせてください。



- 2 **+** ボタンを押して取り消したい休日の登録番号に合わせ、**セット** ボタンを押してください。



- 3 **+** ボタンを押して“週”を“-”に合わせ、**セット** ボタンを押します。



- 4 **設定開始/終了** ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。
 「日付」「時刻」の表示になり、コロンの点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

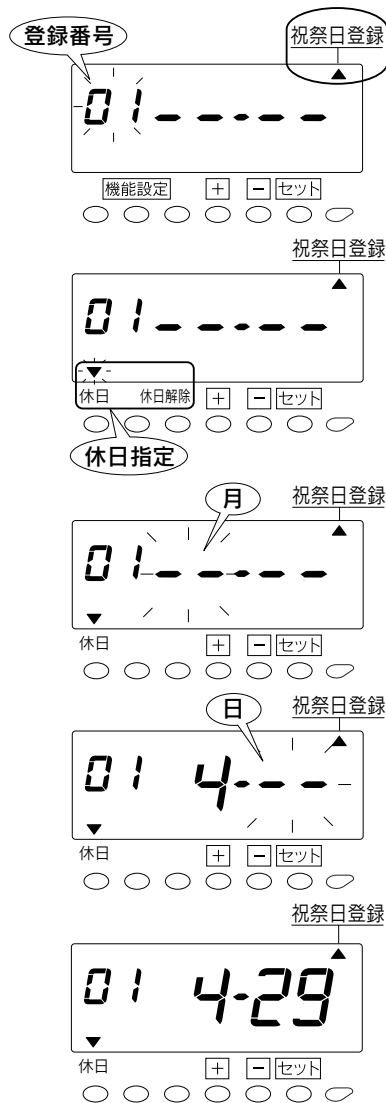
祝祭日の登録

祝祭日の登録では、休日を月日で指定することができます。また、「定休日の登録」で指定した休日を出勤日にすることもできます。

設定開始/終了ボタンを押して、設定できる状態にしてください。
このとき、表示は“----”になります。

■50個まで登録できます。

例) 4月29日を“休日”に設定する。



1 機能設定ボタンを2秒間押しつづけます。

縮日設定の表示になります。
機能設定ボタンを4回押して表示の上側の“▲”を“祝祭日登録”に合わせてください。

点滅している数字が変更できます。

2 「登録番号」の“1”に登録するので、セットボタンを押します。このとき表示の点滅は「登録番号」から「休日指定」に移り、“休日”の上の“▼”が点滅します。

3 例では“休日”に設定するので、セットボタンを押します。このとき表示の点滅は、「休日指定」から「月」に変わります。

4 「月」を設定します。
+ボタンを押して“4”月に合わせ、セットボタンを押します。これで「月」の設定ができました。このとき表示の点滅が「月」から「日」に変わります。

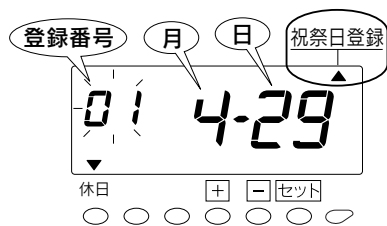
5 「日」を設定します。
+ボタンを押して“29”日に合わせ、セットボタンを押します。これで「日」の設定ができました。

続けて「休日」設定するときには+ボタンを2度押します。その後は、手順2、3、4、5を参照して、設定してください。

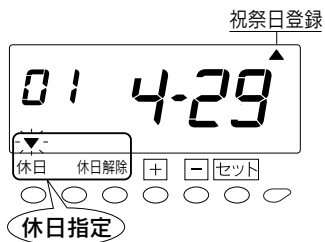


- 6 設定開始/終了ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。
「日付」「時刻」の表示になり、コロンが点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

祝祭日の登録を取り消すには……………



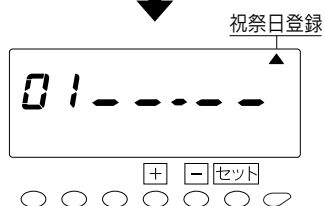
- 1 機能設定ボタンを2秒間押しつづけます。
締日設定の表示になります。
機能設定ボタンを4回押して表示の上側の“▲”を“祝祭日登録”に合わせてください。



- 2 上ボタンを押して取り消したい休日の「登録番号」に合わせ、セットボタンを押します。このとき表示の点滅は「登録番号」から「休日指定」に移り、“休日”の上の“▼”が点滅します。



- 3 上ボタンを押して「休日指定」の“▼”を消して、セットボタンを押します。



- 4 設定開始/終了ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。
「日付」「時刻」の表示になり、コロンが点滅しているのを確認してから、表示フタをつけてご使用ください。



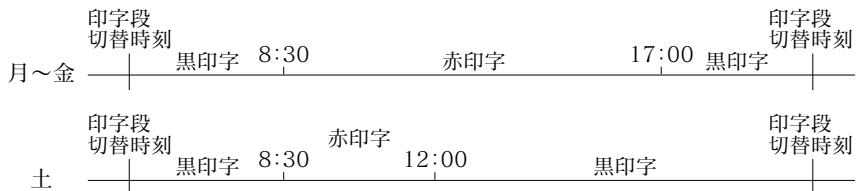
印字色の設定

曜日、時間帯別に印字色を指定することができます。

- タイムレコーダーの1日の始まりは印字段切替時刻が基準となります。前述の「印字段切替時刻の設定」を参照してください。
- 印字色が登録されていない場合は黒印字になります。

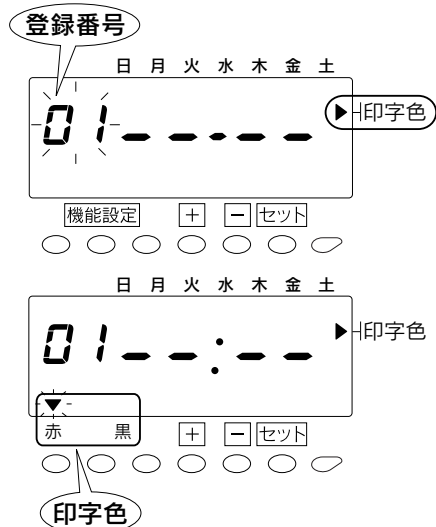
設定開始/終了ボタンを押して、設定できる状態にしてください。
このとき、表示は“----”になります。

印字色の設定は次の例を参考に行ってください。
例)



登録番号	曜日	時刻	印字色
01	月～土	8:30～	赤
02	月～金	17:00～	黒
03	土	12:00～	黒

- 48個まで登録できます。

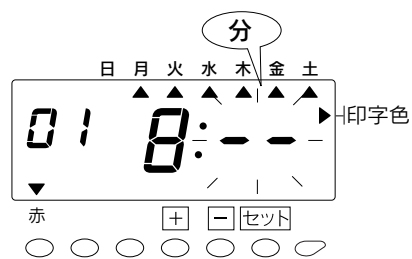
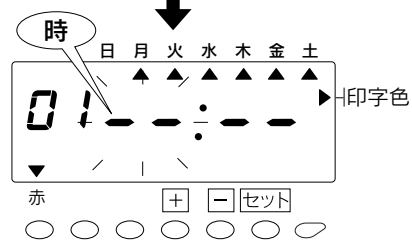
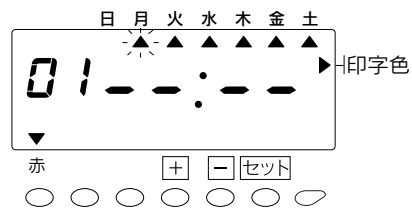
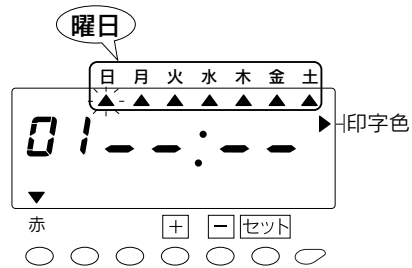


- 1 機能設定ボタンを2秒間押しつづけます。締日設定の表示になります。機能設定ボタンを5回押して表示の上側の“▲”を“印字色”に合わせてください。

点滅している数字が変更できます。

- 例) の登録番号“01”の内容を設定します。

- 2 「登録番号」の“1”に登録するので、セットボタンを押します。このとき表示の点滅は「登録番号」から「印字色」に移り、“赤”の上の“▼”が点滅します。



3 「印字色」の設定をします。
例では“赤”に設定するので、**セット**ボタンを押します。このとき表示の点滅は、「印字色」から「曜日」に変わり、“日”の下の“▲”が点滅し、“月”から“土”の下の“▲”が点灯します。

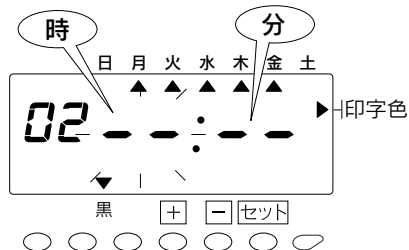
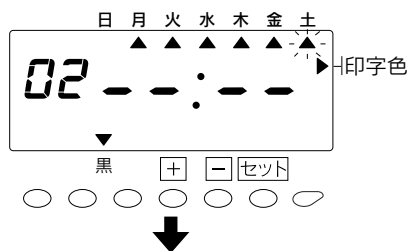
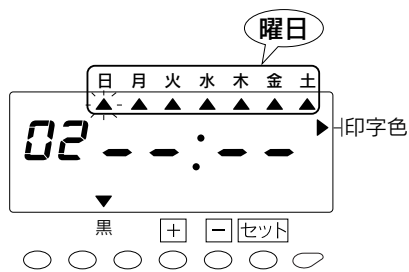
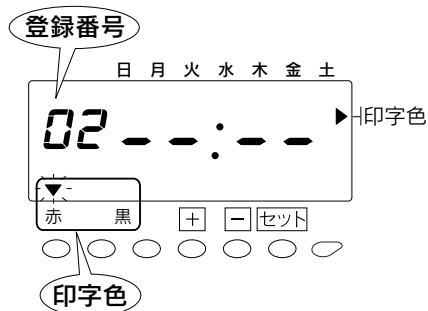
4 「曜日」を設定します。
□ボタンを押します。このとき“日”の下の“▲”が消灯し、“月”の下の“▲”が点滅します。

□ボタンは、“▲”を消灯するときに押します。

セットボタンを押します。これで、「曜日」の設定ができました。このとき表示の点滅は、「曜日」から「時」に変わります。

5 「時」を設定します。
+ボタンを押して、“8”時に合わせ、**セット**ボタンを押します。これで「時」の設定ができました。このとき表示の点滅は「時」から「分」に移ります。

6 「分」を設定します。
+ボタンを押して、“30”分に合わせ、**セット**ボタンを押します。これで「分」の設定ができました。これで登録が完了し、表示の点滅がとまります。



例) の登録番号“02”の内容を設定します。

7 ボタンを押すと、「登録番号」が点滅します。もう一度 ボタンを押して“02”に合わせて、 ボタンを押してください。このとき表示の点滅は「登録番号」から「印字色」に移り、「赤」の上の“▼”が点滅します。

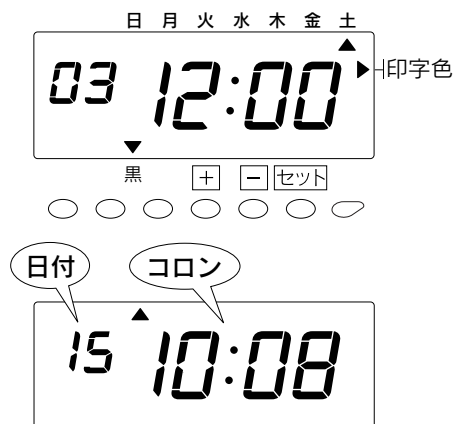
8 「印字色」の設定をします。
 ボタンを押します。このとき“赤”の上の“▼”が消灯し、“黒”の上の“▼”が点滅します。
 ボタンを押します。このとき表示の点滅は、「印字色」から「曜日」に変わり、“日”の下の“▲”が点滅し、“月”から“土”の下の“▲”が点灯します。

9 「曜日」を設定します。
 ボタンを押して“日”の下の“▲”を消灯し、 ボタンを5回押します。このとき表示の点滅が“土”の下の“▲”に移動します。
 ボタンを押して“土”の下の“▲”を消灯します。このとき表示の点滅が“土”から“日”の下の“▲”に移動します。

ボタンは“▲”を消灯させるとき、 ボタンは“▲”を点灯させるときに押します。

ボタンを押します。これで、「曜日」の設定ができました。このとき表示の点滅は、「曜日」から「時」に変わります。

10 「時」と「分」を設定します。
 手順5、手順6と同様に、 ボタンと ボタンを操作して、“17”時“00”分に設定します。
 これで登録が完了し、表示の点滅がとまります。



以下、手順7、8、9、10を参照して、登録番号02と同様に、登録番号03も設定してください。

II 設定開始/終了ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。

「日付」「時刻」の表示になり、コロンの点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

印字色の設定の内容を確認するには……………

手順1を行います。[+]ボタンを押すごとに登録番号“01”→“02”→“03”……のように印字色の設定が確認できます。

印字色の設定の内容を変更するには……………

手順1を行います。[+]ボタンを押して変更したい登録番号を点滅させます。登録したときと同じようにその印字色の設定を登録しなおしてください。

印字色の設定を消すには……………

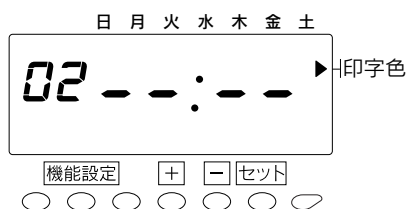
手順1を行います。[+]ボタンを押して消したい登録番号を点滅させます。

[セット]ボタンを1回押して、「指定色」を点滅させます。

次に、[+]ボタンを押して、“赤”と“黒”の上の“▼”を消します。

最後に[セット]ボタンを押すことにより表示は下図のようになり印字色の設定が消去できます。

例) 登録番号No.02を消す場合。



パスワードの設定

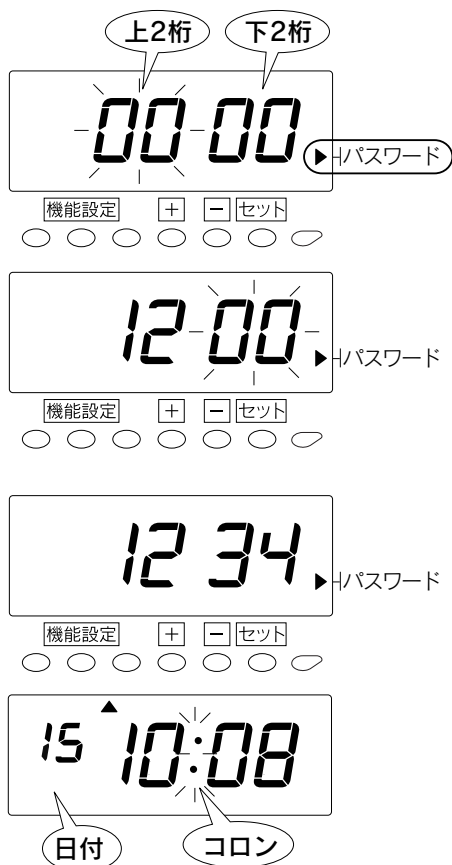
改ざん目的などの故意の時間修正や設定の変更を防止するため4桁のパスワードを設定できます。

■パスワードは“0001～9998”までの数字で設定してください。“0000”及び“9999”は設定できません。

パスワードを設定した場合は、パスワードを入力しないと、時刻修正や設定を変更できません。パスワードの入力方法は「パスワードの設定」の手順2～4と同じです。

設定開始/終了ボタンを押して、設定できる状態にして下さい。
このとき、表示は“----”になります。

例) パスワードを“1234”に設定する。



1 機能設定ボタンを2秒間押しつづけます。

締日設定の表示になります。

機能設定ボタンを6回押して表示の上側の“▲”を“パスワード”に合わせてください。

2 例では、パスワード上2桁は“12”にします。⊕ボタンを押して表示の点滅を“12”に合わせ、次に⊖ボタンを押します。このとき表示の点滅は“上2桁”から“下2桁”に移ります。

3 例では、パスワード下2桁は“34”にします。⊕ボタンを押して表示の点滅を“34”に合わせ、次に⊖ボタンを押します。

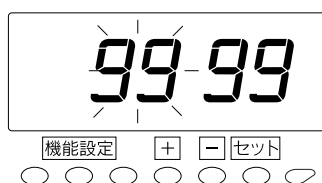
4 設定開始/終了ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。

「日付」「時刻」の表示になり、コロンが点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

●パスワードを設定した後に他の設定内容を変更するには

パスワードを設定した場合は、パスワードを入力しないと、時刻修正や各種設定を変更できません。パスワードは忘れないように管理してください。

例 パASSWORDが“1234”の場合



① [日時設定] ボタン、または [機能設定] ボタンを2秒間押しつづけます。“9999”が表示され、上2桁が点滅します。



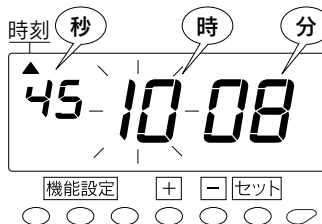
② [↑] ボタンを押して、設定したパスワードの上2桁(ここでは“12”)に合わせ、[セット] ボタンを押します。このとき、表示の点滅はパスワードの下2桁に移ります。



③ [↑] ボタンを押して、設定したパスワードの下2桁(ここでは“34”)に合わせ、[セット] ボタンを押します。

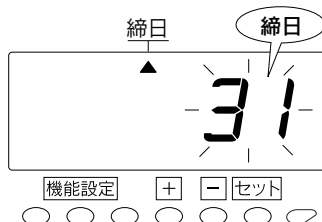
●日時設定モードの場合

※表示時刻が10時8分45秒の場合



これにより、日時設定モードの場合は「時刻」の設定画面に、機能設定モードの場合は「締日」の設定画面になり、設定の変更が可能になります。

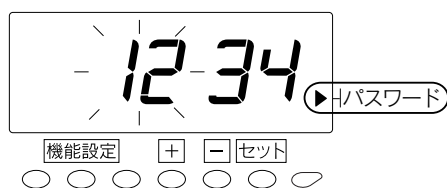
●機能設定モードの場合



パスワードの設定を解除するには……………

パスワードを忘れてしまった場合は後述の「リセット」を行ってください。
なお、リセットを行うと各設定項目は初期設定に戻りますのであらためて設定しなおしてください。日付や時刻も設定しなおしてください。

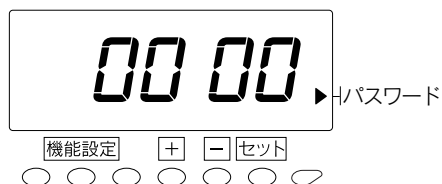
例) パスワード“1234”を解除する。



- 1 **機能設定** ボタンを2秒間押しつづけます。
締日設定の表示になります。
機能設定 ボタンを6回押して表示の上側の“▲”を“パスワード”に合わせてください。



- 2 **+** ボタンを押して表示点滅を“00”に合わせ、**セット** ボタンを押します。このとき表示の点滅が“上2桁”から“下2桁”に移ります。



- 3 **+** ボタンを押して表示の点滅を“00”に合わせ、**セット** ボタンを押します。このとき点滅から点灯に変わります。



- 4 **設定開始/終了** ボタンを押して、設定状態から通常のご使用状態に戻します。
「日付」「時刻」の表示になり、コロンが点滅しているのを確認してから表示フタをつけてご使用ください。

重要!

パスワードを忘れてしまった場合は、後述の「リセットについて」をお読みください。なお、リセットを行うと、各設定項目は初期の状態に戻りますので、あらためて設定し直してください。日付や時刻も設定してください。



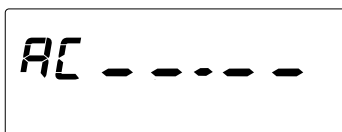
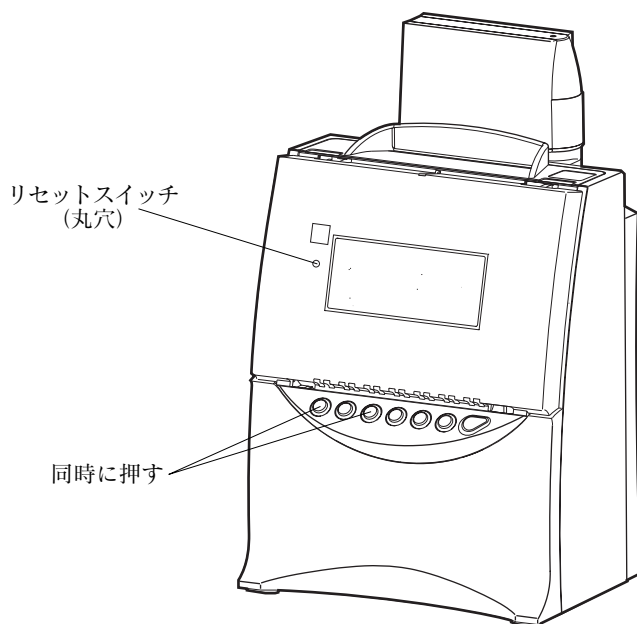
「リセット」(37ページ)、
「設定のしかた」(18ページ)をご参照ください。

リセットについて

すべての設定を初期の状態（工場出荷時）に戻したいときに行います。

注意

リセットすることにより、お客様が設定した内容は消えてしまいますのでご注意ください。



操作ボタンの左から1番目と3番目のボタンを同時に押しつづけながら、先の細いものでリセットスイッチを押してください。

リセットが完了すると表示が左の図のようになり、設定は初期状態になります。

8.こんなときには

エラー番号が表示されたら

エラー番号を確認して正しい操作を行ってください。

番号	エラー内容	対策
E-00	CPUの異常動作です。	ご購入の販売店へご連絡ください。
E-01	バックアップエラーです。	電源コードを抜いて無通電状態にしてください。約10分後もう一度電源コードを入れて通電してください。
E-03	挿入したタイムカードの表裏が逆です。	タイムカードの表裏を逆にして挿入してください。
E-04	カードが正しくありません。	セイコーCカードをご使用ください。
E-05	タイムカードを正しく引き込むことができません	タイムレコーダー内部にクリップや付箋などの異物やタイムカードが詰まっていないか確認してください。確認後、再度タイムカードを入れてください。
E-07	休日印字エラーです。	タイムカードへ印字する休日がありません。「定休日登録」および「祝祭日登録」を確認してください。
E-15	カードセンサーエラーです。	タイムレコーダー内部にクリップや付箋などの異物やタイムカードが詰まっていないか確認してください。確認後、再度タイムカードを入れてください。
E-19	受信アンテナ・エラーです。	受信アンテナが正しく接続されているか確認してください。
E-30	プリンタヘッドのセンサーエラーです。	タイムレコーダー内部にクリップや付箋などの異物やタイムカードが詰まっていないか確認してください。
E-33	リボンの赤黒切替ができません。	リボンカセットがきちんとセットされているか確認してください。
E-37	タイムカード引き込み系のセンサーエラーです。	タイムレコーダー内部にクリップや付箋などの異物やタイムカードが詰まっていないか確認してください。
E-38	プリンタのヘッド走行系のエラーです。	リボンカセットがきちんとセットされているか確認してください。
E-40	パスワードエラーです。	設定したパスワードを、正しく入力してください。
E-49	設定できない値を入力しています。	設定内容を確認して正しい値で設定してください。
E-50	タイムカードを使用できない状態です。	タイムカードのバーコード部分が汚れていたり破損していないか確認してください。
E-52	打刻回数のオーバーです。	4欄(月日印字有り)または6欄まで印字していませんか。最後に印字した欄より左側には印字できません。

回復しない場合にはご購入の販売店へご連絡ください。

故障かなと思ったら

●全く動作しない

電源コードはコンセントに正しく差し込んでありますか？

●印字しない

リボンは正しくセットされていますか？

●印字位置が合わない

締日、印字段切替時刻はありますか？

タイムカードが折れたり、曲がったりしていませんか？

●電波で時計が合わない

電波が受信できていますか？

電源コードはコンセントに正しく差し込んでありますか？

回復しない場合にはご購入の販売店へご連絡ください。

9.リボンの交換

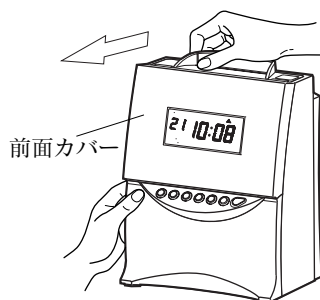
リボンの交換方法

電源を入れた状態で行ってください。

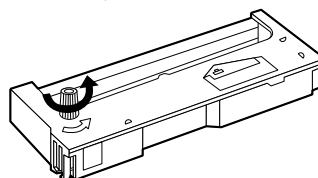
前面カバーをあけたときにリボンカセットが交換しやすい位置に、ヘッドが移動します。

タイムカードに印字される文字がうすくなった場合は、リボンカセットを交換してください。あらかじめ装着されているリボンカセットは工場出荷時の機能検査用(モニターリボン)です。ご使用時一部うすく印字される場合がありますのでご了承ください。

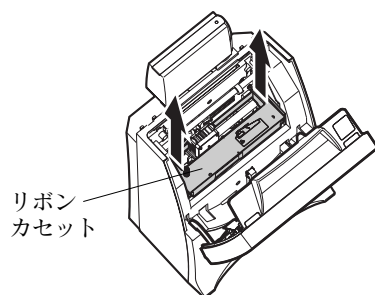
- 1** カード挿入口の上部を掴んで前面カバーを手前に引いてください。



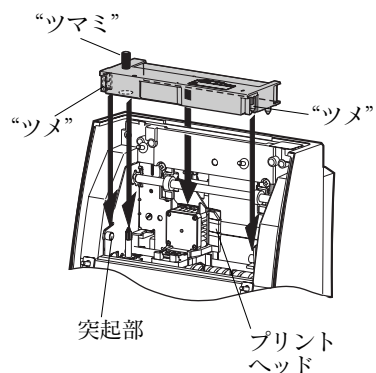
- 3** 新しいリボンカセットのつまみを矢印の方向に回して、リボンのたるみをとります。



- 2** 古いリボンカセットを上に取り上げて取り外します。



- 4** 新しいリボンカセットをプリントヘッドの先端部へリボンを引っかけて、リボンカセットの下側のツメを図のように、タイムレコーダー内部の突起部に、「パチン」と音がするまで押し込みます。リボンを入れづらいときには、つまみを回しながら入れてください。



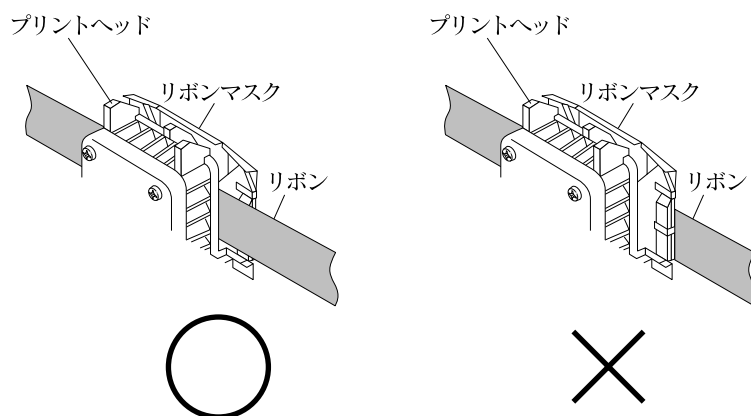
⑤ リボン交換時のご注意

新しいリボンカセットを入れるときには、次のことに注意してください。

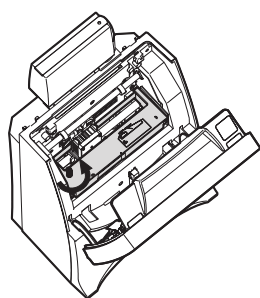
下図のようにリボンが、プリントヘッドとリボンマスクの間に入るようにリボンカセットを入れてください。(左側の図)

また、リボンがねじれていないかも確認してください。

リボンのリボンマスクの奥側にいれてしまうと、正常に印字できません。(右側の図)



⑥ 装着したリボンカセットのつまみを矢印の方向に回して、リボンのたるみをとります。



⑦ 前面カバーを閉じてください。

